

市政を問う

一般質問

一般質問とは

議員が議案以外に市の行政全般にわたり、市長や教育長などに説明や報告を求め、また所信をただすことです。適正な行政運営を行う上で、その役割は重要です。ここでは、24人の議員からの質問のうち、1人3件までその要旨を掲載しました。

- (政和) = 政和会
- (公明) = 市議会公明党
- (フォ) = フォーラム小平
- (共産) = 日本共産党小平市議団
- (生ネ) = 生活者ネットワーク
- (虹ひ) = 虹とひかり
- (みな) = みんなの党小平の会

行政一般

電力の自由化による競争入札について

石毛航太郎議員(フォ) ①対象となる施設数とそれらの年間電気使用量、金額は。

②使用料金は幾ら変わるか。

③競争入札の検討は。

市長 ①合計71施設を予定している。1年間の電気使用量は昨年度実績で1千4百17万8千9百92キワットアワー、電気料金は2億3千5百32万3千2百99円である。

②総体で約6%、1千5百万円程度の節減となる。

③本年9月から準備し、年内に競争入札を行う予定である。

レイアウトが可能となる施設等が必要となり、市内でこれらの条件が整う場所への設置が望ましいと考えている。

②上水本町に来年4月、大沼町に平成25年4月の開所予定で協議を進めている。東部地域でも調整中の案件があり、これらにより本年4月の待機児童数を上回る定員確保が可能となる。

拉致問題への市の見解を問う

堀浩治議員(政和) ①拉致問題に対する市の見解は。

②国が配布した啓発用DVDは学校で上映されたか。

③今後の対応は。

市長 ①日本の国家主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題と認識しており、早期の解決を望んでいる。

②小・中学校の教員からなる人権教育推進委員会で啓発資料として紹介しているが、上映したとの報告はない。

市長 ③ポスター掲示やチラシ等の配布により、拉致問題を周知していく。

公園・用水

喜平橋から旧小川水衛所までの玉川上水南側歩道について

吉池たかゆき議員(みな) ①この区域の管轄と境界はどうなっているか。

②この地域の現状とあるべき姿に対する市の認識は。

市長 ①柵内側の水路部分は都

水道局、外側の緑道部分は都建設局が管轄している。緑道部分の植生は都建設局と市が区間を設けて管理している。

②シンダケやササが歩行者の妨げになる箇所があることは認識している。保護ゾーンと歩道が区別されスムーズに往来できることが望ましいと考える。

道路交通

自転車左側通行の路面標示設置拡大を図るべきではないか

滝口幸一議員(フォ) ①路面標示はどこにあるか。

②自転車の安全な利用の促進についての認識は。

市長 ①小平警察署前と花小金井駅北第一有料自転車駐車場前の2か所にあるが、交通管理者から規制標示と紛らわしくなるとの指摘があるため、現在は看板の設置を中心としている。

②街路灯の設置や交通安全教室等を実施しているが依然として事故は減少していない。今後は地域で開催する交通安全講習会等の機会をとらえ、自転車の通行方法等に関する教育を一層充実させていく。



看板による自転車左側通行の注意喚起

安全・安心な地域構築のために自転車の交通安全対策を

幸田昌之議員(公明) ①自転

育現場の取り組みは。

②自転車の交通安全対策条例をつくるべきでは。

教育長 ①自転車の安全な乗り方を計画的に指導しているほか、小学校の新1年生には親子で学ぶ自転車ルールブックを配布している。中学校ではスタントマンによる交通事故を再現した交通安全教室を実施して交通安全意識の醸成を図っている。

市長 ②先行している市を参考としながら情報収集に努め研究していく。

一橋学園駅南口周辺の自転車安全対策について

堀浩治議員(政和) ①市内の自転車事故の件数は。

②一橋学園駅南口周辺の安全対策は。

市長 ①自転車に関与する人身事故は平成20年が44件、21年が37件、22年は47件と小平警察署から聞いている。

②市役所西通りは自転車に限定せず、総合的な対策として歩道の傾斜を緩やかにしたり、段差の解消や見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置するなど安全対策を行っている。

小川橋交差点など地域の安全対策は改善されたのか

立花隆一議員(公明) ①停止せずに南西方向から交差点に入する車両のパトロール強化を警察に要請できないか。

②開店予定のスーパーいなかや前の立川通りの信号機はいっ設置されるのか。

市長 ①バイ等が定期的に取り締まりをしていると小平警察署から聞いているが、今後も要



小川橋交差点

望していきたい。

②警視庁では前向きに検討中とのことだが、設置時期等の明確な回答はまだない。

小平駅周辺、ロータリー、市道第C-17号線等の整備について

虹川浩議員(公明) ①小平駅南口ロータリー付近の改良は。

②街路樹はどうするのか。

市長 ①歩道の拡幅、ロータリー中央部植栽の見直し、狭山・境緑道の連続性の確保等を基本的な考え方として進める。

②駅前ロータリー南側のニセアカシアは樹勢の衰えが顕著であり、また、狭山・境緑道のサクラ並木の連続性を創出するため、サクラへの植えかえを予定している。あかしあ通りの並木は、同樹種での植えかえや添え木の交換等を行っていく。

たかの街道の歩道改善と鷹の台駅周辺の交通手段の確保等を

木村まゆみ議員(共産) ①鷹の台駅より西側の地域にコミュニティタクシー運行に向けた協議を立ち上げられないか。

②2号団地なかよし広場を部分的に借用して、たかの街道を拡幅できないか。

市長 ①地域の継続的な支えが必要のため、機運の盛り上がりとアンケート調査の結果等を踏まえ検討する。

公共交通の広域連携について

磯山亮議員(政和) ①交通空白地域、交通不便地域をどのように認識しているか。

②近隣自治体との広域連携への取り組みは。

市長 ①駅やバス停から遠い地域やバス路線の運行本数が少ない地域があることは認識しており、超高齢化社会に向けて生活交通の充実が必要と考える。

②本年度から多摩北部都市広域行政圏協議会に公共バス路線等検討専門委員会が設置され、バスの利便性の向上とコミュニティバス等の相互乗り入れの実現に向けた研究を開始した。

医療健康

不活化ポリオワクチンの導入を急ぐ

山岸真知子議員(公明) ①導入に向けた現在の状況は。

②接種費用の公費助成を検討できないか。

市長 ①早ければ来年度中にもジフテリア、百日せき、破傷風、不活化ポリオの4種混合ワクチンが定期予防接種に導入される見込みと聞いている。また、こ

れと近い時期を目指して単抗原不活化ポリオワクチンの開発が進められていると聞いている。

第2の子宮頸がん予防ワクチンの対応について

山岸真知子議員(公明) ①ワクチンの現在の供給状況は。

②第2の子宮頸がん予防ワクチンといわれるガーダシルは公費助成の対象になるか。

市長 ①国の情報では、年度内にグラクソ・スミスクライン株式会社のサーバリックスが約6百万本、MSD株式会社のガーダシルが約3百万本供給される予定と聞いている。

②国が本年9月からガーダシルを子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業の対象とするので、市でも公費助成とする準備を進めている。

成人歯科健診は20歳以上を対象とすべき

末廣進議員(共産) ①口腔疾患の早期予防のため、対象年齢を20歳以上としてはどうか。

②そのための必要額は。

市長 ①健康で質の高い生活を営む上で、口腔の健康は重要だと認識している。東京都小平市歯科医師会の意見を参考にし、今後の研究課題としたい。

②受診率を現在と同じとした場合、約2百40万円である。